

目的

本会は、微生物を用いる各種変異原性試験について検討し、この分野の発展に努めると共に、日本環境変異原学会の発展に寄与することを目的とする。

名称

本会は、日本環境変異原学会微生物変異原性試験研究会 (The Environmental Society of Japan Bacterial Mutagenicity Study Group. 略称 JEMS-BMS 研究会) と称する。

会員数

68 名 (2002 年現在)

JEMS・BMSの沿革

- 1986年に労働省（現：厚生労働省）が実施した変異原性試験の精度管理試験の結果，試験実施機関の間に差（変異誘発物質に対するレスポンスの差）があることが判明した．この差をなくすことを目的に，Ames試験に限定した試験実施状上諸問題を，同様の試験を実施している多くの研究機関の中で討議し，質的な向上を図る会」として設立
- 1988年6月に第1回定例会開催
以後，年2回の定例会を実施（うち1回は日本環境変異原学会の開催日）
- 1995年6月に日本環境変異原学会の分科会として承認

共同研究【終了】

1. 試験材料の検出感度に及ぼす影響

Mutat. Res. 272 (1992)

2. 前培養条件の検出感度に及ぼす影響

Mutat. Res. 272 (1992)

3. 背景データの解析と管理

4. TA102, TA2638, pKM101 導入 WP2 株などの有用性の検討

Mutagenesis 10 (1995), Mutagenesis 11 (1996)

5. 至適前培養条件の簡易検討法

Mutat. Res. 334 (1995)

6. プレインキュベーション法の試験条件

共同研究【進行中】

1. 大腸菌 WP3101P ~ 3106P 株を用いた突然変異スペクトルの解析に関する研究

当研究会の定例会において中間報告済み.

『環境変異原研究』に投稿中

2. ニトロアレーン, 芳香族アミン等の化合物に高感受性を示す YG 株を用いた研究

当研究会の定例会において中間報告済み.

追加データを採取後, 2003 年の JEMS にて発表予定

3. ヒト S9 を用いる変異原性試験

8th ICEM にてポスター発表, 第 9 回 HAB 協議会学術年会にて発表

第 31 回 JEMS にて発表予定 (第 2 回共同研究分)

将来の方向性等

1. Ames 試験のさらなる向上を目指し, 共同研究等を通じて技術的 (手法も含めて) な検討課題を解決していく.
2. Ames 試験結果のデータベースを構築し, 構造活性相関検索に役立てる.
3. 少量新規化合物を対象とした大量処理型 Ames 試験法を開発し, 企業でのスクリーニングに貢献する.
4. 特定な化合物群に特異的に反応を示す新規試験法の開発
5. ヒト S9 あるいは代謝酵素遺伝子を導入した微生物を用いた試験によるヒトでの安全性評価に有効なデータを提供する.
6. “微生物” の冠をはずして, 新しい領域の研究 (例えば **micro array**) に踏み出す. 場合によっては他の研究会と歩調を合わす.